

会 議 要 旨

(1 / 5)

会議の名称	第2回 川越市国際化基本計画審議会
開催日時	平成27年7月17日(金) 午後5時 開会 ・午後7時30分 閉会
開催場所	川越市国際交流センター研修室
議長(委員長・会長)氏名	山田 あき子
出席者(委員)氏名(人数)	鐸木 昌之、亀田 道明、清水 俊男、ベアリ・ドウエル、 筒井 哲朗、藤森 貞花、焦 雁、王 一 (8人)
欠席者(委員)氏名(人数)	エンフバートル・アミナ (1人)
事務局職員職氏名	益子文化スポーツ部参事兼国際文化交流課長、 中里国際文化交流課副課長、田中国際文化交流課主査
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第四次川越市国際化基本計画骨子案について (2) その他 4 閉会
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回川越市国際化基本計画審議会 次第 ・ 第四次川越市国際化基本計画 策定スケジュール ・ 川越市国際化基本計画審議会 第2回会議資料 ・ 第四次川越市国際化基本計画 骨子案

議 事 の 経 過

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 第四次川越市国際化基本計画骨子案について

事務局説明後、意見及び質疑。主なものは次のとおり。

国際化の推進について

- 「(川越の) 国際発信の強化」について加えてはどうか。川越は外国の人に知られていないので、国内外に対して発信が必要ではないか。
⇒国際発信については総合計画に「シティプロモーション」という施策があり川越のPR活動を行っているが、国際化基本計画にも加えることを検討する。
- 「2 国際感覚に優れた市民の育成」の(5)として、「グローバル化社会における経済の活性化」を加え、市内企業をサポートしてはどうか。
⇒市においては観光課、産業振興課が中心となり施策を推進している。
 - ・京都市のプランには「国際ビジネス拠点としての魅力の向上」という項目がある。川越市も国際の視点から取り入れてもいい。
 - ・川越には商工会議所があるので、有益な情報などを交換することもできる。
- 第三次にはあった「国際交流センターの充実」が今回入っていない理由は何か。
⇒国際交流センターで開催されていた各種施策は無くなったわけではなく、それぞれ別の施策に分散されて引き続き充実させていく。
 - ・国際交流センターを「箱」として充実させるのは終わり、中身を充実させていくという視点では理解できる。
- 実施事業はたくさんあるが、はたしてどのくらい機能しているか疑問。第四次の計画に「継続」として挙げられているものも多くあるので、効果があがる方法を見直したほうが良いのでは。
 - ・川越市の公式HPでは外国語表記がどこにあるのか、その入口からして分かりにくい。

議 事 の 経 過

外国籍市民の支援・活用について

- 「1 外国籍市民への支援の充実」(3) 留学生の支援について。インターシップや雇用は留学生だけでなく、日本を生活の拠点としている外国籍市民にも門戸を広げてもらいたい。
⇒市役所では臨時職員を採用しているが、外国語のスキルを持った人からの応募があればそれを生かせる仕事があると思う。
 - ・留学生は学校とアルバイト中心の生活で日々忙しい。彼らに有益な情報を上手く伝える方法を考えたほうがいい。
 - ・川越と池袋では時給が違うので、留学生は市外でアルバイトを見つける人が多い。

- 観光等の施策に先立って、まず外国籍市民を自立させることが必要だと思う。日本社会に一步踏み出すには何より現地の言葉を覚えなくてはいけない。日本語教室等の施策に力をいれて、自立を促し、人材の活用等につなげていけるといい。

- 日本語教室について
 - ・年間約6千人の外国籍市民とボランティアが国際交流センターの日本語教室に参加しているが、現在指導にあたるボランティアの数が足りない。せっかく日本語指導員養成講座を開催しているのだから、その受講生(修了生)に日本語指導ボランティアとして活動するよう積極的に働きかけてほしい。
 - ・指導ボランティアや外国籍の人が励みになるようなイベント、スピーチコンテスト等を開催してほしい。
 - ・学習者のモチベーションがあがるように、内容をより充実させてほしい。
 - ・日本語学習クラス等もう少し組織化して取り組んではどうか。9コマ全て同じではなく、各クラスでいろいろな内容、形式があってもいい。

- 外国籍の方が困った時に相談できるかけこみ寺みたいなものがあるか。
⇒国際交流センターで相談事業を行っているほか、県のほうでも外国語で電話相談を行っている。必要に応じて通訳ボランティアの派遣もしている。
 - ・かわごえ国際ボランティアの会が国際交流センターで月2回「外国籍市民ヘルプデスク」を開催している。相談は敷居が高いとされているので、最初に何を求めているか聞いて、しかるべきところへ「つなぐ」のが役目と考えている。

議 事 の 経 過

- 外国籍の人が日本人に自国の文化や外国語を教えるかどうか。
- ⇒外国籍の方に講師になってもらい、文化や言語を教える講座を開催している。オリンピックに向け、開催数を増やすなどさらに充実させていきたい。
- ・留学生などを活用することもできるのではないか。
- ⇒昨年、市職員向けに開催した英会話クラスには、講師として東京国際大学の留学生に参加してもらった経緯がある。

観光について

- 計画としては「観光客から見た訪れたい町、また行きたい町」と「外国籍住民から見た住み続けたい町」、どちらに軸足を置いて考えるべきなのか。
- ⇒両方と考えている。

- 個人の部屋を旅行者に貸す民泊制度「エアビーアンドビー」は川越では認められているか。
- ⇒現在はまだ話合われていない。民泊制度については今後の検討課題になると思われる。

- 宿泊施設と平行して、観光地の活性化やPRについても考えるべき。
- ・川越はお店が早く閉まるので夜は観光できない。
- ・川越は静かで、外国人が少なく、外国語がほとんど通じない。
- ・緊急の防災情報など流す体制があったほうがいい。
- ・案内できる観光名所が少ない。蔵造りだけだと半日で終わってしまう。
- ・外国語表記をもっと充実させたほうがいい。

その他

- 川越市姉妹都市交流委員会は委員の公募をしているのか。
- ⇒各種団体からの選出委員で構成されており、公募はしていない。
- ・川越市姉妹都市交流委員会の委員として、NPOやNGOの団体などから参加してもらうことも今後の検討課題だと思われる。

議 事 の 経 過

●行政が主体となり国際化施策の運営を行っている、様々な面で無理が生じるのではないかと。国際交流協会のようなものを作り、まかせたほうがいいのではないかと。

⇒近隣の市町村を見ても、その方向性で考えるべきということは承知しているが、人材等の問題もあり進んでいないのが現状である。

- ・相談に来ている人の後ろにはもっと多くの困った人がいるはずで、その人たちのためのプラットフォームや仕組みづくりが必要。その運営の主体となるのは行政でもボランティアでもないのではないかと。
- ・そういう別組織がないほうがいいと考えるボランティアもいる。ボランティアは自発的に行うが、運営まで自分たちでやるのは気が進まないという人もいる。
- ・現在は、市がボランティアと意志疎通を図りながら進めている。それが上手くいくのであれば別組織がなくてもいいのではないかと。
- ・ボランティアの方を盛り上げていこうという流れと、外国籍市民が暮らしやすいようにバックアップしていこう、というのは別の考え方であると思う。行政側は今までボランティア任せの部分があったと思うが、外国籍市民の増加とともに問題を抱えている人も増えてきた。現在はその問題に対応するしっかりした窓口がなく、市の職員が対応していくのにも限界がある。

(1) その他

【第四次川越市国際化基本計画骨子案について】

- ・基本目標については、川越市総合計画との整合を図るためこの案で進めていき、施策等については今回いただいた意見をとりまとめ、事務局で修正を加え進めたい。

【次回の会議日程について】

- ・流動的な要素があるが、9月下旬以降を予定している。事前に各委員あて通知したい。

4 閉会